



# 上末っ子

～ 学び合い みとめ合い 一人ひとりが輝く上末っ子 ～

<https://www.edu.city.yokohama.lg.jp/school/es/kamisueyoshi/>

令和4年1月29日  
2月号  
横浜市立上末吉小学校



学校ホームページ用QRコードです。  
「学校の様子」から各学年の様子を  
ご覧いただけます。



## 支援をする上で大切なこと

児童支援専任 三木雄太

児童支援専任教諭とは…横浜市の小学校における児童指導・支援の中心的役割を担う教諭のことです。横浜市独自の制度として、小学校全校に配置しています。（中学校では、生徒指導専任が配置されています。）役割としては、児童の支援・指導、保護者や担任の支援、学校・地域・関係機関のつながりを深めることなど、様々です。どれも、児童の成長や心の安定を目的としています。

私は現在、児童支援専任2年目です。最近、支援をする上で大切なことは、「児童理解」だと強く感じています。保護者の方と電話で話をすることや個人面談、懇談会など、全て児童理解につながっています。また、教職員が児童の相談に乗ったり、会話をしたりすることも児童理解につながります。

本校では、教職員間で児童理解を深める時間を大切にしています。児童の様子、よさや強み、苦手に行っていること、友達関係、保護者の方の思いなどをしっかりと話し合い、一人一人に合った支援方法を考えています。児童理解を深めた後、短期目標を設定し、支援方法を教職員と保護者で共有しています。

本校の強みは、担任一人で児童理解を終わらせないことです。日頃から学年の先生同士で情報を伝え合い、児童理解を深めています。また、児童支援専任教諭、専科の教諭、養護教諭、栄養士、技術員、事務員、非常勤講師、学校司書、副校長、校長、カウンセラー、スクールソーシャルワーカー、保護者の方など複数による話し合いを多くもち、多面的な視点による児童理解を行っています。これからも児童について話し合う時間を大切に、児童のよさや可能性を引き出す機会を増やしたり、児童の悩みの解決に努めたりしていきます。

児童理解を深め、支援をしているときは、児童の成長を待ちます。しかし、すぐに結果として現れないことがあります。昔、先輩の先生に次のように教わりました。

「子どもの成長とは生き物の脱皮だよ。ある日突然姿を変えるんだ。」

この言葉には、待つことの大切さや、あきらめたり決めつけたりすることへの警鐘が含まれています。学校という限られた時間の中で、つつい答えを急いだり、促したりしがちですが、子どもを信じて、じっくり待つということが大切です。脱皮のときがいつなのかは誰にも分かりませんが、その日を楽しみに日々の支援に工夫を凝らしていきたいです。

そして、子どものがんばりや成長を、保護者の方々や地域の方々と一緒に喜び、時には悩み、考え、共に成長していきたいと思っています。

本日は、KS70♡（周年行事）です。この学校、この町への愛着を子どもたちの心の中でより大きくふくらませていきます。また、今日の日を迎えられたのも、保護者の皆様やPTA役員の皆様、地域の皆様、後援会の皆様のご支援があったからこそです。様々なご支援をいただき、ありがとうございました。これからも、上末吉小学校をよろしく願います。

